

カテゴリー（計画の体系）		調査項目			評価指標	①世論調査（資料3）	②推進役調査（資料4）	③専門職調査（資料5）	
属性		性別		※		A	A	A	
		年齢		※		B	B	B	
		職業		※		C	C		
		住んでいる区				D	D	C	
		世帯構成		※		E			
		住まいの形態				F			
		居住期間		※		G	E		
		町会への加入の有無				H			
		地域における役割					F		
		地域における役割の経験年数					G		
		専門職名						D	
	番号	調査項目	番号	質問項目	評価指標	①世論調査（資料3）	②推進役調査（資料4）	③専門職調査（資料5）	
基本理念 だれもが自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくり	1	●「暮らしやすさ」の実感 基本理念であるだれもが自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくりをめざすにあたって、現時点での実感や「暮らしやすい」と感じる要因は何なのかなどを調査する。	1	暮らしやすさの実感※		質問1	質問1	質問1	
			2	暮らしやすいと感じる点※		質問1-1	質問1-1	質問1-1	
			3	どうなれば暮らしやすくなるか※		質問2	質問2	質問2	
1-1 住民主体の地域課題の解決力強化	地域での支え合い、助け合いの意識づくり	●地域での「つながり」の実感 地域で支え合い・助け合いの意識を醸成していくには、まず地域で「つながり」を感じてもらう必要がある。実際、どのような時に「つながり」を感じたのか、感じることができるのかなどについて調査する。	4	「つながり」の実感※	◎1-1(1)	質問3	質問3	質問3	
			5	「つながり」がある理由※		質問3-1	質問3-1	質問3-1	
			6	どうなれば「つながり」を実感できるか			質問4	質問4	
		●支え合い・助け合いに関する意識 支え合い・助け合いの意識がどこまで地域に根付いているのか、地域における支え合い・助け合いのニーズ（助けたいこと、助けてもらいたいこと）などを調査する。	7	手助けした（したい）こと※		質問4			
			8	手助けを受けたことがあるか					
			9	手助けしてほしいこと※					
	地域福祉活動への参加の促進	●地域福祉活動に関する意識 ・「つながりの実感」や「助け合い・支え合いの意識」につながるものの例として、地域福祉活動への参加について、参加状況や参加しない理由、参加したい行事などについて調査する。 ・地域福祉活動への参加を促進するために、参加状況だけでなく、参加したきっかけや、活動を続ける要因、そもそも参加しない要因などを調査する。 ・地域福祉活動の推進役や専門職からみた地域福祉活動の抱える課題などを調査する。	10	地域福祉活動の認知		質問5			
			11	地域福祉活動への関心	◎1-1(2)	質問6			
			12	地域福祉活動への参加※	◎1-1(2)	質問7			
			13	参加したきっかけ		質問7-1	質問5		
			14	継続している理由			質問6		
			15	参加した際の負担※		質問7-2	質問7		
16	参加しなかった理由※		質問7-3						
17	参加したい地域福祉活動		質問7-4						
18	地域福祉活動に求められていること			質問8	質問5				
19	地域福祉活動の課題			質問9	質問6				
●地域福祉活動としての寄付に関する意識 地域福祉活動としての寄付文化の醸成に向けて、現在の意識と併せて、どのような手段、どのような目的なら寄付をしやすいかなどを調査する。	20	寄付への意識※		質問8					
	21	寄付の方法		質問8-1					
	22	寄付の目的		質問8-2					

※平成18年度に実施した調査において、質問項目としてあるもの

		番号	調査項目		質問項目	評価指標	①世論調査(資料3)	②推進役調査(資料4)	③専門職調査(資料5)
1-1 住民主体の地域課題の解決力強化	住民が主体的に地域課題を把握し解決できる体制づくり	7	●地域課題を解決できる体制に関する意識 地域福祉活動の推進役や専門職が、地域福祉活動を通して把握された地域課題について地域で解決できる体制が整っていると感じているか、体制を整えるための課題は何かを調査する。	23	解決体制の実感			質問10	質問7
				24	体制を整えるために必要なこと			質問11	質問8
	専門職による地域福祉活動への支援	8	●専門職による地域福祉活動支援に関する意識 ・地域福祉活動の推進役が専門職にどのような支援を受けているのか、また何を期待しているのかなどを調査する。 ・専門職自身がどのような支援を期待されていると感じているのか、支援をおこなううえでどのようなことが課題であると感じているのかを調査する。	25	専門職の認知			質問12	
				26	専門職による支援の実感			質問13	
27	専門職に期待する(される)こと					質問14	質問9		
28	専門職支援の課題						質問10		
1-2 地域福祉活動への多様な主体の参画と協働の推進	多様な主体の参画と協働	9	●多様な主体が実施する地域福祉活動に関する意識 地域福祉を推進するためには多様な主体の参画が重要であるが、その現状と地域福祉活動の推進役や専門職がどのような活動を期待しているのかなどについて調査する。	29	多様な主体の種類			質問15	質問11
				30	多様な主体への期待			質問16	質問12
	社会資源の有効活用	10	●地域福祉活動における社会資源の活用に関する意識 地域福祉活動をおこなううえで、人材や場所などの社会資源を活かしていく必要がある。地域福祉活動の推進役や専門職がどのような社会資源を求めているのか、社会資源を活用するうえで課題となっていることなどを調査する。	31	活用したい社会資源			質問17	質問13
				32	活用しやすくするために必要なこと			質問18	質問14
1-3 災害時における要援護者の支援	災害時における要援護者への支援	11	●災害時に備えたつながりづくりに関する意識 災害時に要援護者への支援をおこなうためには、普段からのつながりが重要である。いざという時に頼りにできる人や支援を必要としている人がいるのか、いざという時に住民同士が協力し合うために何が必要であると考えているのかなどを調査する。	33	家族以外で頼りにできる人		質問9		
				34	支援が必要な人の認知		質問10	質問19	
	災害時に備えた地域におけるつながりづくり			35	普段から必要なこと		質問11	質問20	質問15
				36	防災の取り組みの認知		質問12	質問21	
2-1 地域における見守り活動の充実		12	●地域における見守り活動に関する意識 さまざまな形で実施されている地域における見守り活動についての認知度や実際に見守り活動をしている地域福祉活動の推進役や専門職が感じる見守り活動の課題などを調査する。	37	見守り活動の認知	◎2-1	質問13		
				38	見守り活動への意識		質問14		
				39	見守り活動の課題			質問22	質問16
2-2 相談支援体制の充実	複合的な課題等を抱えた人への支援	13	●地域における相談支援の現状 地域における相談支援の現状や相談を受けた地域福祉活動の推進役のつなぎ先などについて調査する。	40	生活上の困っていること※		質問15		
				41	相談できる人の有無	◎1-1(3)	質問16		
				42	相談できる人(機関)※				
				43	相談される頻度			質問23	
	44			相談される案件			質問23-1		
	生活困窮者自立支援制度との連携 子どもの貧困対策との連携 相談支援体制を支える人材の育成・確保			45	相談を受けた際のつなぎ先			質問24	
				46	生困窓口の認知		質問17	質問25	
2-3 権利擁護支援体制の強化	虐待防止の取り組みの推進	14	●虐待を発見した際の通報に関する意識 虐待防止に向けて早期発見が重要となるため、地域の方の通報への意識や通報を妨げる要因を調査する。	47	虐待通報への意識※		質問18	質問26	
				48	虐待の通報先		質問19	質問27	
				49	通報をためらう理由		質問20	質問28	
	成年後見制度等の利用促進	15	●成年後見制度等への意識 判断能力が低下した場合もしくは低下に備えて利用できる制度の認知度と制度利用に関するニーズや利用阻害する要因などについて調査する。	50	制度の認知※	◎2-3(2)	質問21	質問29	
				51	相談のつなぎ先			質問30	
				52	法定後見制度を利用したいか※		質問22		
				53	法定後見制度を利用したくない理由		質問22-1		
				54	任意後見制度を利用したいか		質問23		
				55	任意後見制度を利用したくない理由		質問23-1		
※平成18年度に実施した調査において、質問項目としてあるもの						合計質問数	33	33	18